

2017年11月上旬 記者会見（ナンプーラ市）

ナンプーラ州農務局ペドロ・ズクーラ局長の発言（仮訳）

*録音は次のサイトで公開中

https://www.youtube.com/watch?v=VWS_TW0ZKJY

1. PIは前進し（終了し）、PEMもほぼ終ろうとしており満足している。問題はPD（ナカラ回廊のマスタープラン）だけであり、現在はナンプーラ州市民社会プラットフォームなどが見直しをしており、彼らの手の中にある。すでに最終段階にあり、2月上旬には終るであろう。これが終り次第、マスタープランは承認されるだろう。
2. しかし、我々はある人びとのことを懸念している。いくつかのセグメントが、市民社会の名前で（を代表すると言って）ここ（ナンプーラ）を出てマプート（首都）に行っているからだ。これらの人びとは、プラットフォーム（上記）の議論に参加せず、あるいは同プラットフォームに参加してマスタープランを議論しようともしてこなかった。
3. それにもかかわらず、彼らはナンプーラ州、ナカラ回廊沿い地域の人びとは、プロサバンナを要らないと言っていると表明している。彼らはプロサバンナの初期の頃からそういう態度だった。彼らは「別の（政治的）動機」をもち、「別アジェンダ」のために動いている。彼らは開発否定者である。
4. ナカラ回廊沿いの開発を求める市民社会はナンプーラ州市民社会プラットフォームと協働している。彼らのマスタープランの検討は最終段階にあり、もうすぐ承認されるだろう。そうすれば、プロサバンナは前進する。住民ら、生産者らはプロサバンナに沢山の期待を寄せている。すでに学術関係者の関与を経て、現在プラットフォームに依頼し、いくつかの問いについて検討してもらっているところである。このような改善を経て、マスタープランは承認され、プロサバンナのインプリメンテーション（実施）を手助けすることになるだろう。
5. だから、我々は、あの人達の脅しで止めさせられ(scared off)はしない。プロサバンナを知りたくもなく、マスタープランを議論したくもない人達のこと。これらの人びとの大多数は生産者ではなく、畑ももっていないからだ。
6. 我々は、現場で働いている人達と仕事をしている。ナカラ回廊沿い地域の農業と貧困の状況を生きている人達である。我々は、これらの人達を救いたい。我々は、ナカラ回廊の農業を自給自足の農業から持続可能な農業にトランスフォームさせたい。当然ながら小規模農民を念頭においている。